

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600137		
法人名	(有)ライトマインド		
事業所名	グループホーム花縁 ときわ館 椿ユニット		
所在地	苫小牧市ときわ町3丁目4-14		
自己評価作成日	令和2年1月19日	評価結果市町村受理日	令和2年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・経験年数に応じた外部研修や、定期的な内部研修で学ぶ機会が多くある。研修で学んだことは、他のスタッフにも伝達を行い、全員が同じ方向性で日々のケアを統一できるように努めている。</p> <p>・ケア理念を指針に、生き活きと過ごせる環境づくりと関係性の構築に力を入れており、スタッフ各自が一人一人の入居者様と向き合うことで、多角的な視点からご本人のニーズを見つけられるようにしている。</p> <p>・勤続年数の長いスタッフが多く、スタッフ間の関係性が良く、チームケアに活かされている。</p> <p>・スタッフ全員の防災意識向上のため、毎月シナリオなしでの避難訓練を行っている。</p> <p>・地域のイベントに参加したり、様々な外部の方との交流があり、地域に拓けている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600137-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム花縁 ときわ館」は、静かな住宅地に立地している2ユニットの事業所である。広い敷地内には同法人の小規模多機能ホームと住宅型有料老人ホームがあり、協力体制で利用者が安心して生活基盤を整えている。地域との関わりでは事業所も社会資源として、小学校の出前講座やほっとカフェ、近隣施設中心の茶話会を主催し、『RUN伴(ランとも)』に利用者も参加するなど、関係者と協力しながら実践している。定期的なボランティアの来訪や幼稚園児、小学生との交流もあり、楽しめる機会を継続して作っている。事業所内ではユニットリーダーを中心に理念の精神を大切に日々ケアを振り返り、利用者の思いに沿って対応している。利用者担当職員が利用者の一言からも思い、ニーズを引き出して会議で検討し個別の意向を重視した介護計画を作成している。また協力医の指導と訪問看護師との連携で重度化しても事業所で暮らしが継続できるように多くの看取りを行っている。カンファレンスや研修で学びを深め、職員は温かで落ち着いた姿勢で利用者に向き合い本人・家族の安心感につながっている。総合施設長は直接的なケア以外に携わる職員を採用し、利用者に接する時間を多く取れるように業務を整理し、またこの2月に法人代表となり、職員が意欲的に取り組める職場環境の整備を進めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(椿ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・ケア理念を指針としケアプラン作成時や日々の業務の中で意識して取り組んでいる。その他新人スタッフには新人研修として施設長から指導を受ける機会が設けられている。	法人事業所共通の基本理念のほか、ケア理念の中に地域との関わりを掲げて積極的に貢献している。職員間で利用者の思いを尊重した対応を日々話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練への理解と参加の呼びかけを行うほか、地域の方を招いてのほっとカフェ開催。野外行事や毎月の行事に際して近隣のボランティアさんを招いたり、月一回の当事業所主催の『茶話会』へは、近隣の施設の入居者様と職員をお招きして交流を図っている。	大型商業施設での展示「えがおの花咲く写真展」に事業所も参加し見学に出かけている。事業所の夏まつりには近隣住民と交流している。出前講座授業の一環として来訪した小学生に、手作りのストラップを手渡すこともある。定期的にボランティアの来訪があり、歌や囲碁などを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバンメイトとして近隣の小学校へ出向いて講座を行う事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニットリーダーが参加し、内容を各スタッフへ口頭と書面にて報告している。意見や要望があれば都度話し合いサービス向上に繋げる努力をしている。	地域の法人事業所合同や隣接の小規模多機能事業所とで年6回の会議を開催している。各事業所報告のほか、家族会の意見などを詳細に報告し、外部評価、防災、感染症などで意見を交わしている。会議で得た情報を有効に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が担っており、必要に応じて現場スタッフにも内容が報告されている。	書類提出の際に事業所の状況を伝えている。市からの委託で月1回の「ほっとカフェ」を主催したり、職員がキャラバンメイトとして小学校の出前講座に協力するなどして積極的に関係性を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じ学ぶ機会がある。新人は施設長から入社時に研修指導を受けている。毎月リーダー会議で身体拘束について日頃のケアをもとに話し合い職員に伝達されている。日頃から施錠も行っていない。	毎月法人事業所のリーダ会議で委員会をもち、事例などの状況を把握している。職員は内容を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。内外の研修で身体拘束禁止行為を確認したり、利用者を尊重したケアについて話し合い、利用者の様子を見ながら外に出たい時は同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修で定期的に学ぶ機会がある。日頃のケアの中でも職員の言葉や態度などが『虐待』になっていないかなどをカンファレンスや業務の中で話し合うように心がけている。		

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(椿ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会もあるが、すべての職員が理解し内容を活用できるほど理解しているとは言えない。以前、後見制度を利用している方がいた時には都度、施設長から説明をうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じて都度、施設代表や施設長より書面や口頭で説明を行い、意見要望が無いか声を掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族アンケートを実施している。家族会でできた要望や意見はすぐに検討し回答するように努め質の向上に繋げている。	年2回家族会での意見・要望などの報告書を受け取り、対応を運営推進会議や全家族に報告している。来訪時には状態を説明する中で意見を聞き、ケアや介護計画の意向につなげている。意見などは支援経過記録に記し、個別の意向を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や想いを伝えやすい環境にあり意見が反映されている。行事や勤務体制など様々な場面において意見を求められることがある。	ユニット会議では主にケアについて状態を確認し、介護計画の見直しなどで意見を交換している。業務の中でリーダーが日々意見を聞き取り、リーダー会議にあげることもある。総合施設長は個別に話し合ったり、働きやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、個々に合わせた昇給や、状況に応じて昇格することも在る。また、労働時間の調整や職員の状況に応じて勤務体制を整えてもらえる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアに応じた研修への参加をさせてもらえることでスキルアップできる環境である。勤務内においても指導やアドバイスを受けることでケアの向上に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループワークが行える外部研修への参加もあり他施設職員と交流が図れる場面がある。当事業所主催の月1回の『茶話会』でも他施設職員との交流がおこなえる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(椿ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報に加え、ご本人と交流する中でも思いをくみ取りケアに生かそうとしている。職員同士で情報の共有に努めチームで統一したケアがおこなえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へはこまめに声を掛けたり報告相談を行うようにし、ご家族の気持ちに寄り添い安心して頂けるような関係づくりを職員全員で行うように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長やリーダーから、必要な情報を職員に伝達し内容を共有しつつ、どのような支援が必要か話し合いながら支援に努めている。入居時の暫定プランをもとにどんな支援が必要なのかをチーム全体でアセスメントしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に考える・助け合うを基本に、明るく生活して頂けるように感謝の想いを伝えながらご本人の負担にならない程度に家事などを共に行っている。重度化されている方に対してもスキンシップをとりつつ以前のその方を想像し求めていることを見つけ出すように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子をお伝えするようにしている。遠方に住む方には状態の変化に応じてこまめに電話での報告をしている。またご家族からご連絡を頂く場合もありその際にも様子について細かく伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の来訪時間に対する制限を行わず、いつでも一緒に過ごせるように配慮している他、ご友人が来られるケースもある。ご家族の協力のもと以前からの馴染みの美容室へ通っている方がいる。	友人が来訪し居室で交流を温めている。家族とお墓参りや馴染みの美容室、留守の自宅を見に行く方もいる。また昔住んでいた場所など、家族と遠方に出かける時は意向に沿って職員も宿泊に同行し、可能な限り継続できるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごすプライベートに配慮した時間も大切にしながら、孤立しないようにこまめに声を掛けている。また、仲の良い方は共に楽しく過ごせるように配慮したり重度化し居室で過ごす時間が長い方へも元気な方が声を掛けてくれるような場面を設ける事で一人一人が常に誰かと繋がれるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(椿ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた入居者様にたいしてもご家族に相談と了承を得て、面会に訪れる事でその方の経過を見守っているケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の言動や様子からご本人像を話し合い思いにそった暮らしが可能になるように努めている。また、現状からのアセスメントでは把握しきれない場合にはこれまでの生活歴や価値観も参考にしカンファレンスなどで話し合っている。	担当職員が日頃から利用者の表情や行動、発する一言から、また提示して思いを把握している。4か月ごとの計画見直し時に意向をセンター方式のEシートに記録し、現在の思いを介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも情報シートの記入を御願ひし、日頃の様子も現場で情報シートにまとめて職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で情報共有するとともに、主に家事を働きかけて得意な部分で力を発揮して頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご家族にもご意見をいただく様にしたたり、日頃の関りでご本人とご家族の要望を聞き取るようにしている。それらをもとにカンファレンスで話し合い計画書立案の際に全員統一したケアになるような計画書の作成に努めている。	介護計画見直し時に担当職員が把握した意向をもとに、カンファレンスでホワイトボードに書き出しながら背後の思い、ニーズ、課題を話し合い介護計画を作り上げている。日々の記録では目標に沿って支援内容の変化も記載し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートや情報収集シートを活用し、職員間での共有を行っている。またそれらを実践の中でもこまめに話し合い次に活かせる様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との急な外出や、ご本人の希望があれば一緒に外出している。緊急の受診などもご家族が都合のつかない場合には職員が対応するなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のパン屋さんによる訪問販売を利用したり、大きな野外行事に地域の方をお誘いしている。そのほか近郊の幼稚園の園児たちを招いての行事など様々な方と触れ合いを持てるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の内科主治医による訪問診療を受けられるように医療機関と連携している。特変が生じた場合や急変時にも迅速に対応してもらえるようにしている。	内科、皮膚科の訪問診療を受けている。専門的な他科受診はかかりつけ医を継続し、通院には家族が対応しているが、事情に応じて職員が同行することもある。受診内容は個人ごとに記録し、往診と通院の経過を共有している。	

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(椿ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	最近の利用が無いが必要に応じて訪問看護を受けられるように対応している。普段の急変時には施設長・副施設長が看護師のため指示を仰ぐようにするほか必要に応じ主治医に連絡するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院ケースは少ないが、その場合には施設長が連携をとってくれる場合が多くその際の情報提供にはリーダーが情報提供書類をまとめて施設長を通して医療機関に提供している。また入院時は面会に行くなどし医療スタッフから現状を伝達して頂くなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化が見られた場合には、ご家族に報告し今後の事を相談したりするようにしている。訪問看護を利用するケースや、看取り契約を交わしている方も数名居るため常に変化が生じていないかよく観察するように努めている。	利用開始時に重度化対応、看取り指針で看取りが可能なことも説明している。状態の変化に応じて方針を確認し、看取りを希望する場合は看取り同意書を交わしている。昨年も数件の看取りを行いカンファレンスなどで学び、振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習を職員全員が受けるようにしている。その他、研修などを通じて医療の知識を学ぶ場面がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度消防職員に参加して頂き火災訓練を行っている他、月に1度職員だけの火災訓練・地震や津波想定での避難訓練も自主的に行いすべての職員が交代で行えるようにしている。	昼夜を想定した火災避難訓練に消防署や近隣住民の参加を得て実施し、津波、地震などを想定した自主訓練も行っている。災害備蓄品を整備し、地震想定で危険箇所なども確認しているが、今後は各ケア場面での話し合いを予定している。	各災害時の対応マニュアルを確認する際に、突発的な地震などを想定し、利用者の状態に応じた各ケア場面での対応を話し合い共有できるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心への配慮を心掛けたり、重度化し意思疎通困難な方に対してはスキンシップを取り入れて話しかけながら対応している。	申し送りは事務所で行い利用者に聞こえないように配慮している。言葉かけは敬語を使い、友達口調では話さないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立をその方の希望するもので提供したり、ご本人に希望を確認し意見を取り入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えない部分もあるが、業務優先にならないように都度ご本人の様子に職員が合わせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みで選んでいただくように働きかけているが、重度化し寝たきりの方などの物を選ぶ時には、以前のその方が好んで来ていたものや色を重視して対応している。		

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(椿ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事準備・後片付けを働きかけて楽しく共に行うようにしている。苦手な物は別メニューに変更し刻み食でも美味しく盛り付けられるように心がけている。	おやつ作りでケーキやホットケーキを利用者と楽しみながら作っている。食事の準備、盛り付けなど利用者も手伝えるように工夫している。利用者がハンバーガーを食べたい時は要望に応じて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じて適量や食形態を工夫し、情報を口頭や記録で伝達共有し十分な摂取になるように工夫している。食事進まない方には果物入りのお菓いで栄養を補えるように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は難しく朝晩で行っている。重度化している方に関しては日中でも食後の臥床前に行うようにしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄のパターンに合わせてトイレ通所の促しを行っている。状態に応じて紙パンツと布パンツの使い分けを行うなど一人一人に応じて工夫している。	排泄の声かけに「トイレ」という単語を使わないなどプライバシーを保護しながら支援している。自立に向けて紙パンツを使用していた利用者に布パンツも使い、両方を使い分けるなど工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬物を多く取り入れた献立作りを心がけ、各自に見合った食事の勧め方や水分量の把握を職員間で共有して対応している。必要に応じて浣腸や服薬の調整も検討している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日などを決めずに対応するようにしている。現在1名の方が入浴を断る事が多く対応を検討して対応を続けている。その方の状態に応じては清拭を取り入れている。	利用者の希望に応じて好きな日に入浴を支援し、2人で介助を行うこともある。身体的な状態から入浴が難しい場合は清拭を行い、爽快感が得られるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、寝付けない方にはゆっくり座って話を聞くなど安心できるようにしている。日中に眠気がある場合には無理せず休んでいただき、各自がリラックスして過ごせるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての研修などに参加している。個々の定期薬については、職員が観覧できる場所に説明書を保管している。臨時薬など発生時は各自で確認しているが全員の理解としては不十分と感ぜられる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	冬季は外出できないことも多い。夏季は、入居者様と一緒に野菜を育てたりドライブや買い物に行くこともある。その方の好みに応じての気分転換を働きかけている。			

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(椿ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で戸外に出る事もあるが、身体状況が重度化している方も多く全員とまでは言えないので十分ではない。ご家族や職員と近隣のドライブや買い物に出かける事もあるが頻度は多くない。	行事では花見や夏祭りなどに出かけている。個別外出で喫茶店にパフェを食べに行ったり、大型商業施設で食事をしている。畑に出て野菜の収穫をしたり、利用者の昔住んでいた所へ付き添って行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、外出先で支払いを行い自分で欲しい物が買えるように支援している。毎月2回来訪される訪問販売のパン屋さんで買い物もされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状以外の手紙が届く方もいるが、返信するのが困難な方が多い。電話などは希望があればいつでも掛けられて受けられるように対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中は、テレビを消すなど不必要な音を消すようしている。陽射しがまぶしいと不快と感じる方もいるので様々な場面においてその人に合わせた環境を心がけている。	昔の家具や置物などがあり落ち着いた環境ができている。トイレに入るとき他の利用者から見えない場所にあるのでプライバシーが守られている。ウッドデッキがあり、天気の良い時は利用者と洗濯物を干すなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々な状況に応じた過ごし方ができるようにしている。歩行中にも休憩が取れるように色々な場所に椅子などを設置したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染の家具を持ち込む重要性をご家族に説明し私物を持ち込んで頂ける様にしている。持ち込みの家財が少ない方へは、職員が装飾品を飾るなど居室が殺風景にならないように配慮している。	居室に昔から使用していた家具を持ち込み、好きなものに囲まれて居心地よい生活ができている。各居室に温度計・湿度計をつけて環境に注意している。窓には網戸があり窓が10cmだけ開くようになっているため換気の際の転落防止につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行が不安定な方でも上手に歩行ができるように手すり以外のつかまれる場所を設置したり、目印などは、その方の視線の高さに設置するなど配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600137		
法人名	(有)ライトマインド		
事業所名	グループホーム花縁 ときわ館 楓ユニット		
所在地	苫小牧市ときわ町3丁目4-14		
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果市町村受理日	令和2年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・経験年数に応じた外部研修や、定期的な内部研修で学ぶ機会が多くある。研修で学んだことは、他のスタッフにも伝達を行い、全員が同じ方向性で日々のケアを統一できるように努めている。</p> <p>・ケア理念を指針に、生き活きと過ごせる環境づくりと関係性の構築に力を入れており、スタッフ各自が一人一人の入居者様と向き合うことで、多角的な視点からご本人のニーズを見つけられるようにしている。</p> <p>・勤続年数の長いスタッフが多く、スタッフ間の関係性が良く、チームケアに活かされている。</p> <p>・スタッフ全員の防災意識向上のため、毎月シナリオなしでの避難訓練を行っている。</p> <p>・地域のイベントに参加したり、様々な外部の方との交流があり、地域に拓けている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600137-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアプラン作成に当たって、ケア理念に沿って作成するよう心掛け、カンファレンスでの話し合いを行っている。理念はユニット内に掲出しているが、意識できているスタッフと出来ていないスタッフがいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさん、パン屋さんなどの来訪が定期的にある。近隣の方とは、夏祭りや避難訓練へ参加して頂いている。町内会行事などには可能な限り参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校へキッズサポーター養成講座を開催し、事業所への受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し報告している。そこで頂いた意見については話し合いが行われ、サービスに反映されている。参加していないスタッフは議事録を確認するようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が行っている。スタッフは勉強会に参加などしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項について掲出している。夜間、遅番退勤する19時から早番出勤までの7時までは施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会など参加したり、カンファレンスでの話し合いを行って、虐待防止に努めている。		

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会はスタッフ全員が受けられるようになっている。実際に制度を活用する機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は代表者が行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪者アンケートは玄関に設置している。運営推進会議などを通して家族会での意見・要望を頂き、サービスに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やカンファレンスなどで意見を聞く機会が設けられている。機会が少ないと感じるスタッフもいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて行っている。不透明と感じているスタッフもいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を定期的に行っている。外部研修もばらつきが出ないように受けられるよう配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価・外部評価を受けている。勉強会でのグループワークなどで同業者との交流もあり、お互いのケアを見直すきっかけになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での不安などを考慮し、ご本人が納得できるまで話を聞いたり、困り事や不安なことなどを日々の会話の中から引き出せるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人のご様子をお伝えしたり、ケアプラン立案の際にはご家族の要望も確認して取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、必要な支援を見極めている。その都度必要な対応を随時検討・模索して関わっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす中で困りごと(食事準備、家事、イベント等)を助けて頂いたりする関係が築けている。ご本人のできることはなるべくご自分で行って頂けるよう関わるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の普段の様子をお伝えしたり、生活について相談したり、時には協力を仰ぐこともある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が定期的に会いに来てくださったり、年賀状が届くとご本人へお渡しする。以前住んでいた場所でのお茶会に参加している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見極め、かかわりを支えられるようにしている。仲の良い方同士、一緒に過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後は、関わるのが少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望や意向を把握できるようにしたり、個人との会話を大切に、得た情報をアセスメントしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の情報をアセスメントシートで整理し、まとめてファイルされているものを常に確認できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々なことを検討し、その中でできることを無理なく行って頂き、その都度アセスメントして現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から意向を伺い、月に一度のカンファレンスでEシートによるアセスメントを全員で行いケアプラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、対応についてアセスメントシートに記入したり、申し送りノートなどを活用して共有している。伝達が不十分なこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるよう、その都度話し合いをして対応し、ケアプランにも反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアのかたに来ていただいたり、茶話会や行事への参加を通じて楽しむ機会がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されるかかりつけ医を受診している。スタッフも付き添いなど対応している。		

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に日々の状態を報告し、異常時にはすぐに相談できるようになっており、受診などの支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ情報提供を速やかに行い、ご本人が安心して治療を受けられるようにして、早期退院につながるようになっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長からご家族へ説明し看取りの契約をしており、スタッフに伝達されている。医師や訪問看護師との連携を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を2年に1回受けられるようになっている。AEDの使用方法もその時に説明を受けている。急変時のマニュアルがユニット内にある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1か月に1度避難訓練を行っている。近隣の方にも定期的に参加して頂いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせた話し方を心掛けている。さりげないケアを心がけているが、「トイレ」などのストレートな声掛けの方が理解できるかたもあり、その際は周りに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提示し、自己決定して頂けるようになっている。普段から聞きやすい環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などはその方の体調に合わせて柔軟に対応している。無理にお誘いせず時間に空けてみたり、誘い方を変えるなどしている。どうしたいかをご本人にその都度確認するようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや髪をとかすなど、忘れてしまうこともあるが、できるだけ行っている。化粧は行っていない。		

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握して、別の物を提供する。できる作業は一緒に行っている。自ら食器拭きしてくださる方がいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせて食事の盛る量を変えたり、間食を提供したりして、無理なく摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員は行えていないが、朝晩は全員行えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	無理をせずにトイレでの排泄ができるよう、その方に合わせてアセスメントし、排泄パターンを探っている。それによってトイレへ誘導したり、ポータブルトイレを撤去したり、下着・パットの種類について検討をしたりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やココア、葉物野菜を摂取できるようにしている。必要に応じて薬剤でのコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の気分や体調に合わせて、なるべく偏りなく入浴して頂けるようにしている。時間帯は日中に限られている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の気分や体調に合わせて、定期的に体交やトイレの声掛けをし、快適に眠って頂けるよう支援している。疲労感や眠気がある時はすぐに休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報の紙はなるべく読むようにしているが、すべてを理解はできていない。状況に応じて看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器を拭く、包丁を研ぐ、カラオケやDVDをみて歌を歌う、おはじきやトランプなど、ご本人のやりたいことを行って頂いている。		

グループホーム花縁 ときわ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人用のお菓子を買いにスーパーに出かけたり、行事で近所の喫茶店に外出したりしている。ご家族と協力し、ご旅行に付き添いもしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方はいるが、実際にそれを使うことはない。買い物やパン屋さんが来た時には預り金から買い物するが、その方によって金額を伝えてお金を出してもらったり、だす金額を確認するなどの支援をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けたい方には支援している。かかってきた電話についての取り次ぎもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事にまつわる飾りつけ(正月、クリスマス、ひな祭りなど)をしている。温度湿度を定時で確認し、心地よい環境を作るよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が好きな場所で過ごせるように対応している。一人で過ごせる場所もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使っていたものをなるべく持ってきていただく様にしている。あまりものを置いていない方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に合わせて、歩きやすいようにつかまれる家具を置いたりしている。ホールに置いているほうきとチリトリで自ら掃除してくださる。手の届くところにゴミ箱が置かれていて自ら捨てることができる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム花縁ときわ館

作成日：令和 2年 3月 3日

市町村受理日：令和 2年 3月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	毎月避難訓練は行っているが、利用者様への支援中の突発的な場面で災害が起きた場合の個別の対応方法は話し合っていない。	利用者様の個々の状況に応じ、様々な状況下での対応方法をこまめに話し合うことで、実際の場面で落ち着いて対応できるようになる。	毎月行われるカンファレンス内で、一人一人の個別の支援の際に起きた災害にどのように対応したらいいか話し合う機会を設ける。話し合う際には誰の何を話し合うかはあらかじめ決めておく。	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。